ウメモト　インフォメーション

2022年3月18日　　担当 坂田

NY商品、原油が反発　ウクライナ紛争の長期化観測で供給不安　金も上昇

17日のニューヨーク・マーカンタイル取引所（NYMEX）で原油先物相場が4営業日ぶりに大幅反発した。WTI（ウエスト・テキサス・インターミディエート）で期近の4月物は前日比7.94ドル（8.4%）高の1バレル102.98ドルで終えた。ウクライナ紛争の長期化でロシア産原油の供給が減り続けるとの観測が広がり、一段の需給逼迫を見込む買いが入った。

17日はウクライナと停戦交渉を続けるロシアの政府報道官が「停戦合意に達するのは程遠い」と述べたと報じられた。ロシア軍の攻撃が続くウクライナ南東部マリウポリでは、16日に市民の避難所だった劇場がロシアの空爆を受けた。紛争の長期化が意識され、欧米がロシアに科したエネルギー禁輸措置に伴う同国産原油の供給減も続くと懸念された。

国際エネルギー機関（IEA）が16日付の月報で「ロシアのウクライナ侵攻によって過去数十年間で最も深刻な供給危機になりかねない」と指摘したことも改めて買いを誘った。IEAは「ロシア産原油・石油製品の供給が4月に日量300万バレル減る」と推計した。需要減よりも早いペースで供給が減るとみており、需給タイト化が進むとみていた。

相場は前日までの3営業日で13%下落と大幅に水準を切り下げていたため、自律反発を狙った買いも入りやすかった。

金先物相場は5営業日ぶりに反発した。ニューヨーク商品取引所（COMEX）で、取引の中心である4月物は前日比34.0ドル（1.8%）高の1トロイオンス1943.2ドルで終えた。ウクライナ情勢の不透明感が強まり、逃避資金の受け皿となりやすい金先物は上昇した。外国為替市場でドルがユーロなど主要通貨に対して下落し、ドルの代替投資先とされる金が買われた。

米連邦準備理事会（FRB）は16日の米連邦公開市場委員会（FOMC）でほぼ3年ぶりの利上げを決めた。金先物は大きく売られたが、17日は「高インフレと景気減速の懸念は続いており、金に見直し買いが入った」（オアンダ）と指摘された。

日経新聞

ウメモト　インフォメーション

2022年3月18日　　担当 坂田

シカゴ穀物概況・17日

17日のシカゴ市場で小麦が反発した。ウクライナとロシアの停戦交渉への期待が薄れ、買いが再開した。ロシアのプーチン大統領は16日に欧米の経済制裁に対し強気の姿勢を示した。16日の市場では停戦交渉が前進するとの見方から急落したが、この日は戦況の長期化が警戒された。米海洋大気局（NOAA）が17日に発表した今春の気象見通しを手掛かりに、産地の干ばつ懸念が強まったことも買い材料になった。5月物終値は前日比28.75セント高の1ブッシェル=10.98ドル。

トウモロコシも反発した。米農務省が17日発表した週間の輸出売上高を手掛かりに輸出活況を見込む買いが入った。同省が17日に新規輸出商談を公表したことも好感された。5月物終値は同24.50セント高の7.545ドル。

大豆は小麦とトウモロコシにつれ高した。5月物終値は同19.25セント高の16.6850ドル。

日経新聞

ウメモト　インフォメーション

2022年3月18日　　担当 坂田

東北の製油所・工場、地震で停止相次ぐ

交通・物流

JR東日本によると、東京発仙台行きの東北新幹線が白石蔵王駅（宮城県白石市）の約2キロメートル手前で脱線した。78人が乗っていたが、けが人はいない。同線は那須塩原－盛岡間で運転を取りやめ、運行を継続する区間でも上下線ともに列車本数を大幅に減らす。全面再開には時間がかかる見込みだ。

東北新幹線の運転見合わせなどを受け、全日本空輸（ANA）は17日に羽田ー仙台線を3往復、羽田ー福島線を2往復、臨時便を運航する。仙台空港を拠点とするアイベックスエアラインズ（東京・江東）は17日の仙台、福島両空港の発着便について予約変更や払い戻しの手数料を無料にする。日本航空（JAL）も同日に羽田ー山形線や羽田ー仙台線などで臨時便の運航を決めた。

NEXCO東日本によると、東北自動車道や常磐自動車道など一部の高速道路で通行止めが発生している。

製油所

ENEOSは仙台製油所（仙台市）の安全装置が作動し、稼働を停止した。火災や爆発は発生してないものの、敷地内でタンクからA重油が漏洩し、現在回収作業を行っている。また、東京電力管内で起きた停電の影響で千葉製油所（市原市）の稼働を停止しているほか、川崎製油所（川崎市）の一部設備でも稼働が止まっている。

出光興産の石油精製子会社である東亜石油も京浜製油所（川崎市）の一部設備の稼働を停止している。

通信

大手携帯電話各社は一部地域で影響が出た。携帯電話の通話やデータ通信が利用しづらい状況が一時続いた。NTTドコモやKDDIなどは17日中に復旧した。

日経新聞

ウメモト　インフォメーション

2022年3月18日　　担当 坂田

エチレン稼働率、2月は92.4%　高稼働もコスト増を懸念

石油化学工業協会（東京・中央）は17日、化学製品の基礎原料であるエチレンの生産設備について、2022年2月の稼働率が92.4%だったと発表した。好不況の目安となる90%を21カ月連続で上回った。ただロシアのウクライナ侵攻で原油価格が高騰している。コスト上昇による需要冷え込みで、今後のエチレン稼働率の低下が懸念される。

2月のエチレン生産量は、前年同月比9.9%減の43万7800トンだった。前年同月は定期修理中のプラントがなかったが、22年2月は1基のプラントが定期修理中だったことが影響した。石化協と塩ビ工業・環境協会（東京・中央）がまとめた主要5樹脂の2月の生産量（数量ベース）は、低密度PE（ポリエチレン）、高密度PE、PP（ポリプロピレン）、塩化ビニール樹脂の4樹脂で前年同月比マイナスだった。

石化協の和賀昌之会長（三菱ケミカル社長）は同日のオンライン会見で、ロシアのウクライナ侵攻で高騰する原油価格について「コストを圧迫し、（石化製品の）需要を冷え込ませる可能性がある」と話した。「侵攻をきっかけに景気が後退すれば、今後、国内のエチレン稼働率の低下も考えられる」と懸念を示した。

国内のエチレン設備の稼働率は高水準が続いている

日経新聞

ウメモト　インフォメーション

2022年3月18日　　担当 坂田

東海カーボン、純利益増

【純利益増】主力の電気炉製鋼向けの黒鉛電極の需要拡大。タイヤ原料のカーボンブラックは北米でのタイヤ買い替え需要が旺盛で販売増。増収。黒鉛電極の値上げ交渉進み採算改善。純利益大幅増。

日経新聞